

**公開ワークショップ**  
**地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化：**  
**シチズンサイエンスを通じた地方課題解決**  
**～市民と科学者が“つながる場”について考える～**

**主催：**日本学術会議若手アカデミー

**共催：**九州大学科学技術イノベーション政策教育研究センター (CSTIPS)、九州大学分子システム科学センター (CMS)、公益財団法人九州経済調査協会BIZCOLI

**後援：**国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)、福岡市、日本認知心理学会心理学の信頼性研究部会、日本心理学会サイエンスコミュニケーション研究会

**日時：**平成31年3月2日 13:00～17:15

**場所：**電気ビル本館地下2階7号会議室（福岡市中央区渡辺通2-1-82）

**開催趣旨：**学術情報流通の変革と研究情報のオープン化が進み、科学者間の情報流通が格段に効率化している。これにより、市民が研究情報へアクセスすることが容易になり、市民の科学研究への参画も可能になってきた。この流れの中で、米国では数千人から数万人の市民が参画する新しい研究スタイル（シチズンサイエンス）の創出が進んでいる。シチズンサイエンスは、これまでのアカデミアの思考に囚われない新しい発見を生み出すだけでなく、際立った成果を生み出す者に注目が集まり、自発的に研究を行うポテンシャルの高い研究者候補を生み出す新たなキャリアパスとしても注目されている。また、市民の科学への参加は、科学コミュニケーションとして科学への認識と理解を深め、科学者と市民の距離をより近づけることにつながる。人口減少問題が深刻化する我が国においては、このような活動を通じて研究活動の担い手を増やすことが可能と考えられるため、新たな形で学術を活性化する効果をも期待できる。本ワークショップでは、地方創生の一環として、新たな研究スタイルであるシチズンサイエンスを通じて地方が包含する社会課題の解決や、地域性に基づく学術推進が可能かを検討する。

特に、市民と研究者がつながりうる場をいかに構築するかが、事の成否の鍵と考えられるため、地域社会のあり方と密接に関わる地域行政の視点や、地域で注目すべき成果を挙げているサイエンスコミュニケーションの実例なども交え、シチズンサイエンスの地域での普及・活性化が可能かを議論する。また、市民の参画が容易な分野を中心として、シチズンサイエンスの活動基盤としての大学の地域における役割についても議論する。若手アカデミーが持つ学術横断的な視座でこれらの課題を捉え直し、若手科学者を中心とした学術活動に基づく地方創生が可能かを議論する。これらの議論をふまえ、地域の市民との学術的交流をはかるためにサイエンスカフェも同時に実施し、サイエンスコミュニケーションの新たな可能性も模索する。

## 【プログラム】

### 【第一部】 講演会＋公開討論

13:00 **【開会のご挨拶】** 高瀬堅吉（日本学術会議連携会員/若手アカデミー幹事、自治医科大学教授）

13:05 **【趣旨説明】** 岸村顕広（日本学術会議連携会員/若手アカデミー代表、九州大学大学院准教授）

### 【基調講演】（司会: 高瀬堅吉）

13:10-13:55 林 和弘（文部科学省科学技術・学術政策研究所所 上席研究官）

「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」

13:55-14:40 中村征樹（日本学術会議連携会員、大阪大学全学教育推進機構 准教授）

「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」

14:40-14:50 休憩（質問メモ回収）

**【話題提供】 地方を舞台とするシチズンサイエンスの可能性－福岡での取り組みを中心として－**  
（司会: 岸村顕広）

14:50-15:05 宮下絢乃（福岡市総務企画局企画調整部Society5.0担当）

「Society5.0の実現に向けた福岡市の取り組み：実証実験フルサポート事業による  
先端技術を活用した社会課題の解決」

15:05-15:20 松田莉菜 (福岡市保健福祉局健康先進都市推進担当)

「産学官民の共働・共創の場「福岡ヘルス・ラボ」～楽しみながら健康になれるまちづくり～」

15:20-15:40 吉岡瑞樹 (九州大学大学院理学研究院准教授、サイエンスカフェ@ふくおか運営者)

「地域におけるサイエンスカフェ活動から見える市民巻き込み型学術の可能性」

15:40-16:00 山岡 均 (国立天文台天文情報センター)

「サイエンスパブ in 福岡：市民と学者の”ガチだが気軽な対話”から生まれるもの」

16:00-16:10 休憩 (質問メモ回収)

16:10-16:50 **【質疑応答、総合討論】** 「シチズンサイエンスに基づく社会課題解決/  
地域での学術推進にはどのような場が必要か」(司会: 岸村)

16:55 **【閉会のご挨拶】** 新福洋子 (日本学術会議特任連携会員/若手アカデミー副代表、京都大学大学院医学  
研究科准教授)

**参加者数：**講演者等 10名、その他の参加者 30名

\*終了後にアンケートも実施した。



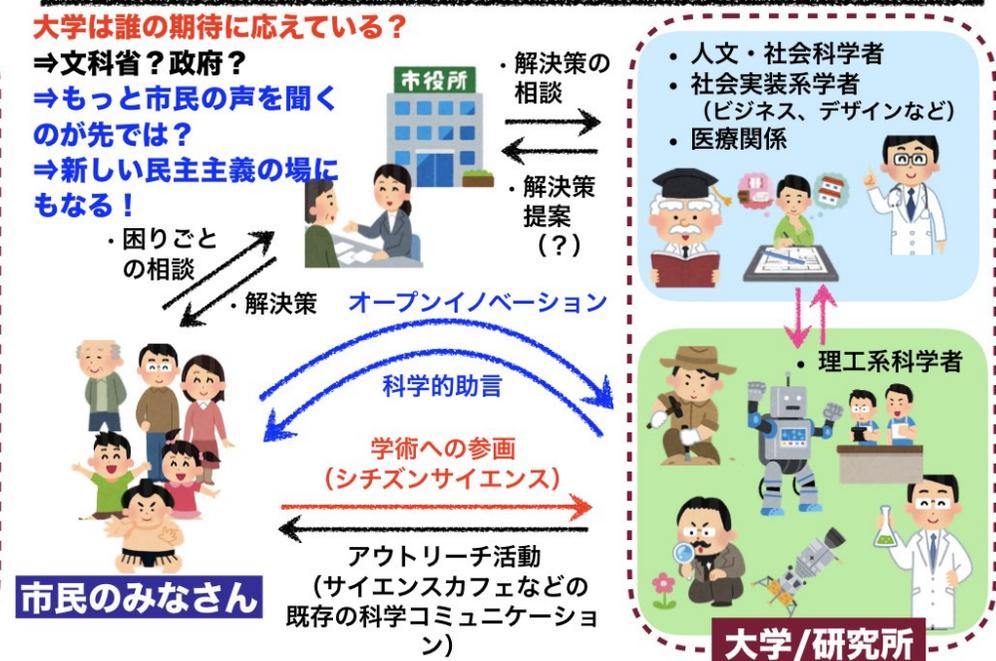
高瀬メンバーの挨拶によりワークショップがスタート。このあと、企画を主に担当した岸村が趣旨説明を行った。

岸村から、科学者と社会（一般市民）との関係についての現状認識と問題提起がなされた。

### 科学者（研究者）と市民とのつながり ～従来モデル～



### 科学者（研究者）と市民とのつながり ～双方向モデル～

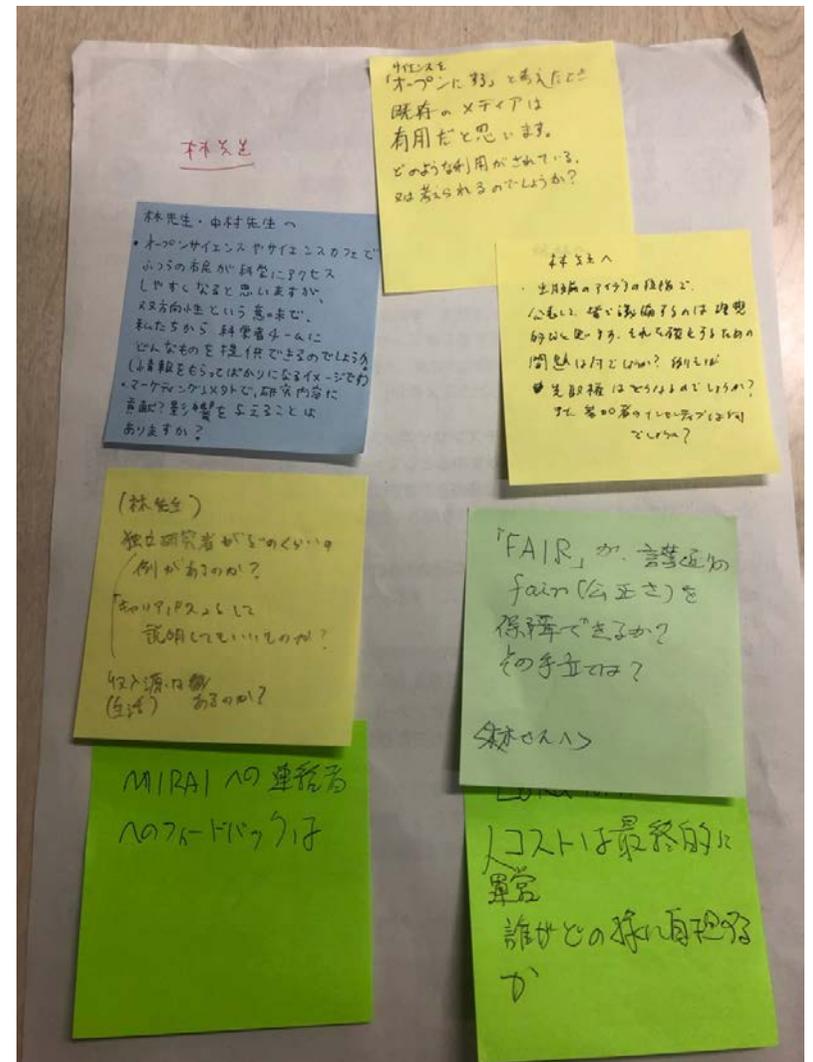


# 本日のご講演



登壇者の聞き所を示すとともに、参加者への議論の参加を促した。具体的には、ポストイットを配布し、質問や意見を回収した。

回収したポストイットの例、写真は林先生への質問等である。





林先生による基調講演。オープンサイエンスの現状と学術への影響、シチズンサイエンスへの影響について最新の知見に基づいた内容が語られ、今後の展望が示された。



中村メンバーによる基調講演。研究者と市民の関係について、サイエンスカフェの歴史やその事例、及び、シチズンサイエンスの事例の紹介があったほか、今後の市民の科学への市民の関わり方について、国内外の取り組みを踏まえて分析と考察がなされた。最終的にシチズンサイエンスへの期待と可能性が語られた。



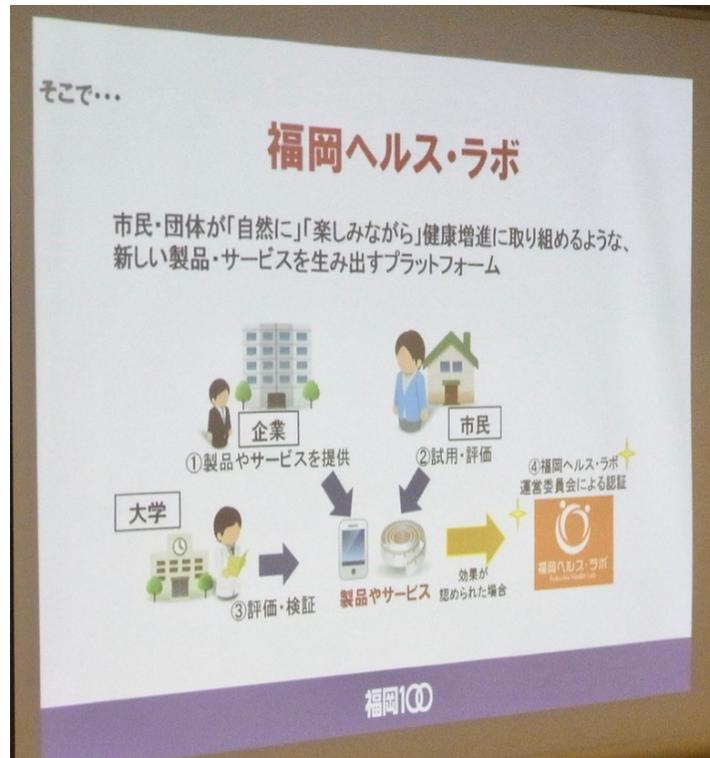
基調講演に聞き入る参加者。後方に見えるホワイトボードに質問用紙を回収した。



←福岡市・宮下様から、福岡市の Society5.0に関わる取り組みや、実証実験をサポートする事業を紹介していただいた。

↓福岡市・松田様から、街づくり、地域づくりでの観点での産学官民“オール福岡”での取り組みとして、福岡ヘルスラボについてご紹介いただいた。

アンケート結果によると、福岡市がこれらの取り組みを進めていることに前向きな驚きを示す参加者もいた。



このほか、福岡市からは福岡市科学館の関係者の方にも聴衆としてご参加いただいた。



吉岡先生からは、素粒子物理学に関わるシチズンサイエンスの事例紹介のほか、ご自身が関わっておられるサイエンスカフェの活動や、地域（特に北部九州）でサイエンスカフェ活動を広げていく展望などが語られた。

山岡先生からは、サイエンスパブの活動紹介をしていただき、サイエンスをネタにしたフリートークの場の意義をその成果とともにお話いただいた。無関心層に響くための話題として小惑星への命名権の話や、市民とのコミュニケーションを目的とする学会の誘致を通じて福岡市から表彰された話など、今後のシチズンサイエンスの進め方のヒントになる話が満載であった。



- NAOJ まずは自己紹介
- 生育地: 愛媛県松山市
    - 中高時代は地学部で活動
  - 東京大学理学部天文学科卒
    - 同大学院、博士(理学)
  - 九州大学で教鞭(H4~H28)
    - 物理学教室で天体物理学、天文普及
  - 国立天文台広報室長
    - プレスリリース、Web監修、講演会運営
    - Twitterも運営



←質疑応答・総合討論の様子。質問に丁寧に答えていただき、熱い議論が展開できた。



議論の中で、サイエンスショップのご経験があるCSTIPSの小林先生からもコメントをいただいた。

↓クロージングは新福副代表。



登壇者と若手アカデミー運営メンバーでの集合写真。



## ワークショップの成果：

Web上で申し込みを受け付け、webページ（日学、九州大学、JSTなど）や地域のメールマガジンなどで告知を進めた結果、かなり多様な参加者（分野・立場の異なる大学教員（他地域からの参加あり）、名誉教授、学生、地域行政、地域の科学館、サイエンスコミュニケーションに関わる市民、会社員、その他など）をうることができ、趣旨に沿う集客となった。回収したアンケート（回収率50%）の満足度は概ね高かった。基調講演によりシチズンサイエンスの基本的概念とその取り組み方が参加者に効果的に伝わり、その理解促進の役に立った様子が見受けられた。また、関連する行政の取り組みの紹介、地域でのサイエンスカフェなどを中心とするシチズンサイエンス、新たな市民との交流に関する内容については、参考になったとの声も多く、高い満足度につながったものと思われる。また、参加者から登壇者への質問をメモの形で受け付け、質疑応答・総合討論の場で登壇者に回答をしてもらう時間を十分とったため、双方向的なやりとりが十分にでき、内容の濃い討論ができ、これもまた満足度を高めるのに貢献したと思われる。特に、会場には、市民側の立場で科学コミュニケーションに取り組みされる方や、つながりの改善に興味を持つかたも複数参加しておられ、実際に取り組む際にたちはだかる問題点などについても議論を行うことができたのは大きかった。科学者と市民の双方向的な関係の改善という本会合の趣旨が各登壇者の論点としても現れ、またそれが聴衆にも十分に理解された印象で、シチズンサイエンスの理解促進や今後の可能性を広げるためのモデルケースとして、十分な効果をあげたと考えられる。今後、類似の活動を各地域で行うことが望まれる。

後日談として、我々の取り組みに興味を持ってくれた団体（日本科学未来館；研究者の実証実験の場を市民が関わる形で提供）からの問い合わせがあった。我々の目指す方向性と近い活動をしていることから、今後も関わりを持つとともに、異なる地域でこのような取り組みが広がる端緒となることを期待したい。例えば、福岡市の実証実験支援策などとの関係を深め新たなモデルケースが生まれることで、別の地域でも展開しやすくなることが予想される。また、参加者から関連するテーマで講演の依頼があるなどの波及効果があったことにも触れておく。

## 【第二部】サイエンスカフェ（“サイエンスカフェ@ふくおか”とタイアップして実施。）

日時：平成31年3月2日 17:30～19:00 場所：電気ビル共創館3階・BIZCOLI

話題提供：「身体も心！～心理学のこれから～」山田祐樹（九州大学 准教授）

ファシリテーター：小林良彦（九州大学）

参加者数：34名（+運営4名）

話題提供時の様子。

座談の様子。左列中央が山田先生。



前半は山田先生による話題提供が行われた。身体は表情やしぐさなどによって、心を外に提示する出力デバイスとしての側面を持つ。今回は、その反対に心が身体によって形作られる場合についてお話しいただいた。またそれを元に、心理学のこれからについてや、科学の本質についてなどお話しいただくとともに心理学分野でのシチズンサイエンスの活用について触れていただき、参加者と一緒に考えるきっかけを与えてくれる内容であった。後半は、山田先生を囲む形で質疑応答を行い、議論を深めた。シチズン（市民）がいかに巻き込まれるかについても来場者と密な議論を行うことができた。会場からは「市民側のメリットをはっきり語ってもらえると、シチズンサイエンスなどにもっと積極的に取り組めるのではないか」などの建設的な意見も出ており、大変有意義な議論となった。

（以上、報告作成・岸村顕広）